

資源評価調査・資源管理基礎調査委託事業（海洋環境）

日本海定線観測（要約）

清藤真樹<sup>1</sup>・永峰文洋

目 的

青森県日本海海域における海況情報を収集し、漁業者等に提供する。

材料と方法

青森県の日本海定線において、試験船開運丸及び青鵬丸により7月と1月を除く各月1回、seabird社製CTD・911plusによる表層から最深1000mまでの水温と塩分の測定、採水による塩分、クロロフィルの測定、プランクトン、卵稚仔の採取を実施し、対馬暖流(日本海)の流勢指標を平年（1963～2013年平均値）と比較した。また、収集・分析した情報は、ウオダス漁海況速報や水産総合研究所のホームページ等を通じ公表した。

結 果

観測結果を下表に示す。

0m層最高水温は、2、3、4月が「やや低い」、5月が「かなり高い」、6月が「はなはだ高い」、10月が「やや高い」であった。50m層最高水温は、3月が「やや低い」、6月が「やや高い」、9月が「やや低い」、10月が「かなり高い」であった。100m層最高水温は3月が「やや低い」、8月が「かなり高い」、9月が「やや低い」、10月が「やや高い」であった。対馬暖流の流幅を100m層5℃等温線の沿岸からの位置で見ると、舳作線では2、3月が「かなり広い」、4月が「はなはだ広い」、8月が「かなり広い」、10月が「やや広い」、11月が「やや狭い」、12月が「やや広い」であった。十三線では2月が「かなり広い」、3月が「はなはだ広い」、4月が「かなり広い」、6月が「やや広い」、8月が「はなはだ広い」、10、11月が「やや広い」、12月が「かなり広い」であった。対馬暖流の水塊深度を7℃等温線の最深度で見ると2月が「かなり深い」、3月が「はなはだ深い」、9月が「やや浅い」、10、12月が「やや深い」であった。対馬暖流の北上流量について水深300m層を無流量とした地衡流量で見ると2月が「はなはだ少ない」、4月が「かなり少ない」、5、6月が「やや多い」、8月が「やや少ない」、10月が「やや多い」であった。舳作線の東経138度20分～139度50分、水深0～300mの水温を積算した「断面積算水温」により対馬暖流の勢力を評価すると、2月は「はなはだ強い」、3月は「かなり強い」、4、6月は「やや強い」、8、10月は「かなり強い」、11月は「やや弱い」、12月は「かなり強い」であった。

表 観測結果から算出した平年比（平年比%：平年偏差／標準偏差×100）

観測項目（平年比）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
各層最高水温(°C)	0m	-	-70	-114	-49	+196	+284	-	+0	+1	+67	-23	-20
	50m	-	-47	-128	-43	+46	+109	-	-38	-88	+132	-51	-27
	100m	-	-13	-125	-6	+39	+20	-	+154	+11	+117	+3	+3
流幅(マイル)	舳作線	-	+176	+154	+202	+12	+57	-	+165	+54	+82	-58	+107
	十三線	-	+148	+225	+193	+190	+120	-	+210	+167	+97	-24	+170
水塊深度(m)	-	+238	+366	+53	+56	+5	-	+30	-70	+118	-9	+123	
北上流量(Sv.(10 <sup>6</sup> m <sup>3</sup> /s))	-	-242	-42	-154	+111	+80	-	-92	-16	+124	-25	-12	
断面積算水温(°C)	-	+216	+135	+106	+38	+102	-	+134	+18	+132	-60	+167	
階級	平年並み	やや	やや	かなり	はなはだ								
平年比の範囲	±60%未満	±130%未満	±200%未満	±200%以上									

<sup>1</sup> 青森県農林水産部水産局水産振興課

発表誌：平成26年度漁海況予報関係事業結果報告書（青森県資源管理基礎調査），平成27年7月

平成26年度定線観測結果表，平成27年7月